

所属・資格 史学科・准教授

申請者氏名 伊藤 雅之

研究課題		紀元前2世紀の地中海世界の外交
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>当該時期は一般に、ローマによる地中海全域における覇権が確立していく時代であると理解されている。これは大きな流れから歴史を見る上では、基本的に正しい。しかし、歴史研究の中で得た知見を現代社会に還元していくという観点からすると、十分な理解とはいえない。今の世界においてもそうであるが、覇権であれ国際秩序であれ、それが存在するとされているからといって、人々が現実レベルでさしたる危険にさらされることなく生活できていたとは限らないからである。申請者としてはこうしたことを念頭に、ではそうした覇権あるいはその下で何らかの秩序が形成されるようになっていったとして、当時のローマやその周囲の者たちは、どのような点に意識を向け、あるいは問題意識を持ち、その改善に取り組んでいったのかというところを考えていった。具体的には、近年その整理や史料検討の深化が著しい、地中海東部で出土したギリシア語諸碑文に注目しつつ研究を進めた。ギリシア語は古代地中海における国際標準語に近い存在で、多くの者に読まれ、また書かれた。そうした文書の解析を通じ、文献史料からだけでは分からなかったローマとギリシア語圏の人々や、あるいはまたより東の人々との関係を明らかにし、大きな方向性は見えつつあったものの、なお混んとした面も大きかった当時の国際環境のあり様とその中で人々がどのように自身の利益や生存の確保を図っていたのかを考察した。</p>
	研究の結果	<p>本年度の成果として何よりもまずあげるべきは、『第一次マケドニア戦争とローマ・ヘレニズム諸国の外交』（山川出版社）の刊行である。出版自体は2018年度半ばに決まったものであったが、各章本文や図表は2019年秋になってようやく完成を見た。内容としては、表題の通り第一次マケドニア戦争と呼ばれる戦役があった時期前後の古代ローマおよびヘレニズム期ギリシア人諸国の外交を扱っている。申請者が日本およびイギリスで大学院生だった頃よりの研究成果の中で博士論文に載せることができなかつた内容を少なからず含んでいるが、学位取得後および本学に勤め始めてからの検討や史料整理の成果も数多く取り入れたものとなっている。</p>
	研究の考察・反省	<p>今年度は、上記の学術書の刊行に多くの時間と労力をかけることとなった。これはこれで大きな成果であるといえるが、その他の研究作業については、それらを具体的に発表するという段階まで至らしめることはできなかった。紀元前2世紀を中心としたギリシア語、およびラテン語の碑文史料（行政文書や私的な団体の構成員たちによる決議文など）の読み込みは依然として続けているが、次の年度にはその他の情報源（パピルス文書や他の研究者による史料検討、およびそれらを基にした議論）をも活用しつつ、その成果をどれだけ具体的な論文や学会報告へとつなげていけるかが問題となってくると考えている。</p>
学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>「ヘレニズム期デルフォイのブロックセニア被認定者表碑文について」（日本大学史学会第3回例会、2019年10月26日）</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>『第一次マケドニア戦争とローマ・ヘレニズム諸国の外交』（山川出版社、2019年11月16日）</p>	